



安曇野市立 穂高東中学校

地域とつながる防災学習

全員が被災者、そのとき私ができること



地域の方と連携した防災学習

「ふるさと穂高に学ぶ」を主旨とした総合的な学習の時間を、地域の職場体験学習、地域と連携した防災学習、放課後学習教室など、各学年テーマに沿って取り組んでいます。

平成29年から始まった地域と連携した防災学習は、7月から生徒と区長さんが活動内容を一緒に考え、9月に全校で避難訓練を行い、その後、生徒が自分の地区にて、地域の大人と一緒に防災について学びます。活動を通して、地域の一員として災害を自分事として考えるということを意識しています。もし災害が起きたとき、自分の地区の高齢者や小さい子を助けられるのは、自分しかないかもしれない。自分の命を守る、そして地域を守る力を持っている中学生として、地域とつながり、人とつながる。そして体験を通し、学びを深め、行動に起こすことを大切にしています。

活動を終えた生徒からは、「もし災害が起きたとき、地域の人全員が被災者でもあるので、自分は助けられる側という意識ではなく、自分にもできることを考えて行動するようにしたい」「まずは災害への備えが大切。日頃から近所の人と交流をもって、いざという時に助け合えるようにしたい」といった声が聞かれ、地域の防災を担う一人としての意識が育まれました。

地域の名人に学ぶ放課後学習教室

毎週水曜日、放課後の時間にて、地域の名人による「放課後学習教室」を開講しています。好きなこと、興味のあることに夢中になって追究する時間です。講師の先生の熱心な指導のもと、受講した生徒たちは没頭して取り組み、腕を上げていきます。

2024年度は「イラスト」と「ギター」の2講座が開設され、ギター講座の最終15回目には、ミニライブコンサートが行われ、練習の成果を披露しました。

安曇野市立 穂高東中学校 HP



福祉教育のポイント

毎年その地区ならではの防災学習が企画されています。地域の方と一緒に活動することで、地域の一員である自分事として地域防災について考えるきっかけとなっています。地域の力を借りながら、地域とつながる。東中生の大切な学びです。

岡谷市立 岡谷西部中学校

反射タスキは西中生の証

命を守り、大切な思いをつなげていくために



反射タスキを着け、命を守ることは、使命

岡谷西部中学校では、全校生徒が反射タスキを身につけての登下校が伝統として引き継がれています。反射タスキが西中生にとって大切な存在となったきっかけは、1つの交通事故がきっかけになります。生徒手帳には次の文章(一部)が記されています。

「この痛ましい事故を受け西部中では、生徒全員が反射タスキを着用しています。この伝統は、絶対に受け継がれ、大切にされなくてはならない伝統です。伝統、いや使命と言ってもよいでしょう。私たちは、一人で生きているのではありません。一人一人の周りにはその人をこよなく愛し、大切に思っている人々が大量にいるのです。そういう人を悲しませないために、そして何よりも自分を大切にするために、反射タスキを着け、自らの命を守ることは、使命なのです。

当時の校長先生は、こうお話を結んでいます。『…皆さんは人生を全うしてください。全うするんです！是非頼みます。…』

今も西中生は反射タスキを着けています。反射タスキは、西中生の証です。ここに込められた思い、願い、使命を忘れることなく、中学校生活を大いに楽しみ充実させましょう。」

花咲く丘プロジェクトから地域の未来を考える

諏訪湖の西側、中部日本一のツツジを誇る鶴峰公園の近くにある中学校です。校舎建て替えにより花などの植物が少なくなったことをきっかけに、緑豊かな学校にしようと、令和元年度から一人一苗木のツツジの植樹活動「花咲く丘プロジェクト」に取り組んでいます。

また、総合的な学習の時間を「岡谷未来の時間」として、地元岡谷を知りながら、SDGsに関する探究などを行っています。

例年11月には地区奉仕作業が行われ、公民館や公園、神社などの清掃を地域の方々と一緒に行っています。

岡谷市立 岡谷西部中学校 HP



福祉教育のポイント

地域の方々と活動をするとなんだか発見があると思います。そこで考えたことや想いを他の人にわかりやすく伝えること、ぜひチャレンジしてみましょう。想いを形にしていく一歩になります。